

## シリーズ1、病虫害等による庭木の被害とその対策（9）

### 一屋敷林におけるスギの健康度診断（2）一

富山県林業技術センター林業試験場

中山間地域資源課長 西村 正史

前回は、屋敷林内の中心的な地位を占めているスギの衰弱の原因が地下部にある場合の診断方法を紹介しました。今回は、気象害による被害の特徴と対策を紹介します。

#### 1. 乾燥害

##### 1-1. 被害の特徴

本県では5月なしは7月から8月にかけて降雨が少なく、乾燥した日が続く場合があります。そのような年には、スギの先端枯れが発生しやすくなります。この時期に極端な乾燥が続くと、枯損するスギが多発するようになります。このような例は1994年にみられました。この年の秋に県内各地の屋敷林やスギ林でスギが枯損するという被害が目立ちました。これは、その年の5月から8月にかけてほとんど雨が降らなかったことによるものでした。

##### 1-2. 対策

スギは本来水が停滞しないで流れているような場所でよく育ちますが、水不足になったり、水が停滞したりすると、衰弱します。雨が少なく乾燥した時には、スギ等に散水を行うようにしてください。

屋敷林では強度に枝打ちされたスギをよくみますが、乾燥年と重なると枯損する危険があります。このような年には、強度な枝打ちは控えるようにしてください。

#### 2. 落雷による害

##### 2-1. 被害の特徴

落雷の被害を受けると、スギの幹に亀裂が入ったり、黒く焦げたり、幹が裂けて落下したりします。このような場合、葉が急激に鮮やかな赤褐色になって、全体が枯れたり、スギの左右どちらかが枯れたり、あるいは上半

分だけが枯れたりします。大径木が被害にかりやすい傾向にあります。

##### 2-2. 対策

避雷針の設置が考えられますが、天然記念物のようなスギは別にして通常のスギでは有効な方法はありません。落雷の被害を受けてスギが衰弱した場合には、被害を受けたスギの樹冠の下で、根元付近を避けた範囲に堆肥等を施して土壌と混和し、樹勢の回復を図ることが大切です。

#### 3. 冠雪害

##### 3-1. 被害の特徴

雪国では冬にたくさんの雪が降ります。そのために、雪がスギに積もり、その重みに耐えかねて幹が折れたり、転倒したりする被害が発生します。幹や根が腐朽菌に冒されている場合には、冠雪害の被害を受けやすくなります。

##### 3-2. 対策

スギの樹勢を絶えず健全な状態に保つことが大切です。



写真 強度な枝打ちが実施された屋敷林のスギ